

令和6年度 学校評価（星城高等学校）

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
学校経営方針	<p>*建学の精神の具現化を目指し、「“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成」に取り組む。その中で、新しい教育観に基づく教育の実践、自分探し・磨きの実践に重点を置き、「礼節」「進学」「スポーツ」「国際交流」を確実に進展させる。</p> <p>*明德コースの探究学習について学校全体で取り組み、充実を図る。県内の全中学校・中学3年生に対し、明德コースの取り組みについて周知徹底する。</p> <p>*仰星コース、特進コースについては、学力の向上、進路実績の充実を図る。</p> <p>*新入生500名以上を確保する。</p>		
重点目標	<p>I 礼節：教職員が率先して行動することで、生徒の「礼節・感謝」の徹底を目指す。</p> <p>II 進学：進路指導を充実させ、昨年度を上回る進路実績を目指す。</p> <p>III スポーツ：全国大会出場生徒数100名を目指す。</p> <p>IV 国際交流：新たな交流国を探すと共に現交流国と親交を深める。</p> <p>V 明德コース：プログラム科目、探究学習の充実を学校全体で取り組むと共に広報活動を徹底させる。</p>		
重点目標	評価項目	担当	具体的方策≪数値目標≫
I	身だしなみに対する意識の向上	1学年	<p>○制服を正しく着用し、気持ち良い学校生活が送れるようにするため、朝のST時に担任から身だしなみを整える声掛けをする。</p> <p>○授業の号令で級長・副級長・日直より「服装を正して」という号令を入れ、身だしなみに対する意識の向上を図る。</p> <p>《A:服装頭髪検査の継続指導該当者が年間20名以下（延べ人数）、B:21名以上30名以下（延べ人数）》</p>
I	テストの厳正実施	教務部	<p>○厳正な態度を持って定期テストに臨むよう、ホームルーム等で生徒に指導する。</p> <p>○テスト毎に「テストに関する注意事項等」を配信するとともに、担任から生徒へ説明をして、不正行為が起きない環境作りに努める。</p> <p>○テスト作成・監督等に関する「定期テスト等実施に関する注意事項」を配信して、教員への注意事項徹底を図る。</p> <p>《テスト時のトラブル：ゼロ件（A:ゼロ件、B:1件以上）》</p>
I	交通ルール遵守マナーの向上	生徒指導部	<p>○登下校時に校門で、教員から生徒へ積極的に挨拶を行うことで、礼節を啓発していく。</p> <p>○愛知県警愛知署主催の「200日間自転車無事故・無違反ラリー」に参加し、HR等で交通ルール遵守を喚起する。あわせて、このラリー期間中に、歩行通学者に対しても交通安全とマナーを喚起する。</p> <p>○各機関の生徒指導部会へ参加し、最新の生徒指導の情報をもとに、集会などでルールの遵守を啓発する。</p> <p>《ラリー期間中の自転車と車の接触事故が、A:ゼロ件、B:1件以上》</p>
I	健全な心身の育成	保健部	<p>○生徒が人間関係や身体等について考える機会を持つために、学年別の教育相談講話を実施する。</p> <p>第1学年では、さまざまな「性」について深く考えさせて、周りの性自認に配慮した言動を考えさせる。</p> <p>第2学年では、異性との関係や正しい性の知識を身につけさせ、生命の尊さを考えさせる。</p> <p>第3学年では、人間関係の中で互いを大切にする気持ちと相手を尊重する気持ちを考えさせる。</p> <p>○保健部だより「はーとん」（教育相談関連）・「保健だより」（保健関連）を生徒に発信し、生徒の心身の健康を啓発する。</p> <p>《保健部担当の講話の実施や保健部だよりの発行などの施策 A:12回以上、B:12回未満》</p>
I	グローバル探究活動の充実	探究部（仰星特進）	<p>○仰星・特進コース全学年の「総合的な探究の時間」において、グローバルな視点を持ってローカルな課題（地域課題）を解決する活動を実践することで、さまざまな立場の豊明市民が輝く新たな架け橋をつくれるように、授業内容の充実を図る。</p> <p>○グローバル探究を通して主体的・協働的に取り組む態度を育成し、それが大学受験等に向けた学習においても自ら学びに向かう姿勢として表れるように導く。また、地域との協働において、地域課題解決に取り組むことで社会貢献に対する意識を高め、自らの進路選択に真剣に向き合うように導く。</p> <p>《ルーブリック4段階自己評価の集計 A:主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B:どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C:主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D:どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》</p>
I・II	進路意識を高める	2学年	<p>○個人面談をこまめに行い、進路希望をより具体的なものとするための情報を得る方法を学ばせ、動き出しの鈍い生徒に対してのサポートを展開する。</p> <p>《各学期2回以上》</p>
II	学習習慣の定着と学習意欲の向上	1学年	<p>○朝学の取り組み方への指導を通じて、学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。</p> <p>○スタディサポートの事前シートや振り返りシートを活用して、定期的な学習習慣の振り返りを行う。</p> <p>《仰星・特進・アスリート特進 A:ベネッセ総合学力テスト11月3教科のB2以上60%、B:B2以上50% 《明德コース A:ベネッセ総合学力テスト11月3教科のC3以上50%、B:C3以上40%》</p>
II	模試偏差値の向上	2学年（2号館）	<p>○得意教科の向上と苦手教科の克服に向けて、集団の学力に合わせた課題設定などの指導を行うとともに、教員間で情報を共有して個別指導など具体的対策を練る。また、各模試における目標設定を明確にして段階的に学力を高めさせる。</p> <p>《3科目偏差値50.0以上が仰星50%以上、特進アス20%以上》</p>
II	評定平均値の向上及び検定受検の促進	2学年（本館）	<p>○担任と教科担当で連携をとり、朝学習や小テストなどに取り組む姿勢を高めることで、定期テスト期間以外での学習習慣のさらなる定着を図る。</p> <p>○各種検定に対して、積極的に挑戦するように働きかける。</p> <p>《2年終了時の評定平均値4.0以上が25%、各種検定受検総数100名以上》</p>
II	国公立挑戦へのサポートを含む最後まで挑戦する進路指導の充実	3学年（2号館）	<p>○外部模試の成績推移を注視しながら個人面談を重ね、国公立大学受験挑戦を含め、受験方式や専願・併願の関係も考慮に入れた「受験プラン」を早期に立てさせる。新課程入試初年度となるため、入試科目・配点などの情報を随時入手し、納得のいく「受験プラン」となるよう指導する。外部模試については、分野別・設問別成績に着目させ、弱点・苦手分野の把握・克服に向けての声かけに重点を置く。以上の指導を通して、常に高いレベルを目標とし、妥協せずに戦い抜く力を身につけさせる。</p> <p>《国公立出願者数が、A:60名以上 B:60名未満》</p>
II	総合型選抜を含む戦略的な進路指導の充実	3学年（本館）	<p>○生徒の希望を叶える進路獲得を目指して、個人面談を重ね総合探究を活用した総合型選抜挑戦を含む戦略的な進路指導を重ねる。具体的には、「プレゼン発表」や「志望理由の組み立て方」など、総合探究の授業で学ぶ内容と同時に、小論文講座や志望理由書書き方講座への参加を促す。</p> <p>《個人面談実施回数が、A:各学期3回以上、B:各学期3回未満》</p>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策≪数値目標≫
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定 ・ 進学実績の向上 (1年)	進路指導部	○1年生：英検、漢検、数検に積極的に挑戦させる。そのため、コース別集会において進路における検定の重要性を伝えながら、クラス担任による個別面談に繋げていく。 ○進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、コース選択の資料に活用して学習意欲向上に繋げる。 《英検受験150名、漢検受験150名、数検受験30名》 ○仰星・特進・アストコース：コース別集会、個別面談を複数回実施し進路目標設定の動機付けを行い、国公立大学・難関私大を視野に入れた進学指導を施すとともに、地方国公立大学にも目を向けさせる。 《ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合偏差値50以上が60名以上》 ○明德コース：基礎学力の定着を図り、各種検定試験へ積極的に挑戦させる。 《ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合のB2ゾーンを10%以上》
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定 ・ 進学実績の向上 (2年)	進路指導部	○2年生：進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、進路選択の資料に活用して学力向上に繋げる。また、各種検定に積極的に挑戦させる。 《英検受験200名、漢検受験100名、数検受験10名》 ○仰星コース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。 《ベネッセ総合学力テスト11月において、国英数総合偏差値50以上が30名以上》 ○特進・アストコース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。 《ベネッセ総合学力テスト11月において、いずれかの3教科総合偏差値50以上が30名以上》 ○明德コース：基礎学力の定着を図り、各種検定試験へ積極的に挑戦させる。 《ベネッセ総合学力テスト11月3教科総合のB2ゾーンを10%以上》 ○多様な進路獲得の実現に向けて各種検定を積極的に受験させる。 《各種検定 総受験者数100名以上》
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定 ・ 進学実績の向上 (3年)	進路指導部	○3年生：共通テスト模試6月等のデータを基に面談を行い、進学・就職の目標を達成するための一助とする。 《仰星GTZ B2以上50%、特進・アストGTZ B2以上25%、明理・文GTZ B2ゾーン10%》 ○仰星・特進・アストコース：学級担任による面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。また、全員が共通テスト6教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。 《国公立大学出願数60名以上、国公立大学合格者20名以上》 ○明德コース：進研模試6月結果をもとに保護者会で目標設定をし、総合型選抜、指定校推薦、公募制推薦の明確なプランを立てる。 星城大学、星城大学リハビリテーション学院合わせ、内部進学を早期に勧める。 総合型選抜・学校推薦型選抜入試の出願先を、個人面談を通じて早期に決定させ、その必要性を説き各種講座に昨年度に引き続き積極的に参加するよう指導する。 《内部進学者35名、小論文講座・志望理由書書き方講座受講150名以上、指定校推薦100名》
III	部活動ガイドラインに則った部活動運営の把握と管理	部活動支援	○「部活動指導ガイドライン（文部科学省等）」や「部活動に係る活動方針（学校経営要項）」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営につなげる。 ○部活動施設の設備の点検など安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。 《部活動における不祥事ゼロ件》
III	強化部の入学生徒増加と人間性の向上指導	部活動支援	○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化する。具体的には、生徒募集の現状を把握して問題の解決を図ることで、強化部の入学生徒数増を目指すとともに全国大会（選抜・総体・国体）出場者増につなげる。 ○日々の部活動指導を通して、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指すと共に、人間性と技術面の向上を図る。 ○周囲の方々から応援していただける部活動運営や生徒育成に向けて、庶務・国際交流部と連携し、ボランティア清掃参加呼びかけや実施などのサポートを行う。 《部活動の生徒募集による入学者数110名、全国大会出場生徒数100名》
III	NPOスターアカデミー活用の模索	NPO	○NPOスターアカデミーの現状を確認・把握し、本校でどのように活用できるか模索する。 ○リコンディショニングセンター設置に向けて、事務との連携を図り進めていく。 《活用企画の提案2企画以上（リコンディショニングセンター設置を含む）》
IV	国際交流プログラムの実施	庶務・国際交流部	○新型コロナウイルス感染症による国際交流中止（令和5年度一部実施）が続いてきたが、今年度可能な企画から本校の国際交流プログラムを再開し、建学の精神である「世界観の確立」の具現化に取り組む。 《A:交換留学・短期留学プログラムを2つ以上、実施することができた。 B:交換留学・短期留学プログラムを1つ以上、実施することができた。 C:交換留学・短期留学プログラムを再開することができなかった。》
V	プログラム科目の充実	教務部	○プログラム科目選択において、学ぶことの楽しさを考えて選択できるよう、ICTを活用した情報提供を行う。 ○魅力的なプログラム科目の新たな開発及び、現行科目のブラッシュアップを、教科主任を通して各教科に呼びかけ推進する。 《令和8年度用新規プログラム科目5つ推進 A:5科目以上、B:5科目未満》
V	探究学習の充実	探究部（明德）	○明德コースの「総合的な探究の時間」において、「社会未来探究（1年）」「世界未来探究（2年）」「自分未来探究（3年）」のカリキュラムを開発して実践する。 ○第1学年はSDGsを通して社会課題を自分事として捉え、原因や解決策の検討などに協働して取り組む態度を育成する。 第2学年はフィールドワーク等を通して情報収集や自分の意見を他者に伝え成果を共有しようとする態度を育成する。 第3学年はこれまでの活動を振り返ることや今後取り組みたい課題を考えることで自らの進路実現に真摯に向き合う態度を育成する。 《ルーブリック4段階自己評価の集計 A:主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B:どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C:主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D:どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》
V	明德コース活動の広報	広報部	○9月にホームページリニューアルを行い、閲覧者が検索しやすい階層を整えることで、検索数を増やし、本校に興味を持っていただくことにつなげる。また、ワードプレスを導入することで、内容の更新をよりスピード感をもって行えるようにする。 《9月から更新を開始する。》 ○愛知県下の中学3年生に対し、仰星・特進・アスリート特進コースの進路実績、明德コースの探究・プログラム科目のリーフレット・パンフレットを配付し活動実績を伝える。 《重点校109校の中学3年生全生徒に配付する。》